

Q 9 学校と家庭・地域が連携して、子どもたちを育てていくためには、どのような方策があるか。具体的な実践例を示してほしい。

A : 学校がその目的を十分に達成するためには、家庭や地域の人々とともに子どもたちを育てていくという視点に立ち、家庭、地域社会との連携を深め、学校内外を通じて子どもたちの生活の充実と活性化を図ることが大切である。

学校と家庭・地域が連携していくためには、様々な取組が考えられるが、学校のもつ教育機能・施設の活用、保護者会運営の見直し、PTA活動の活性化、家庭教育への支援、地域教育力の導入、生涯学習関連機関・団体との連携などを具体的な実践例として掲げてみる。

【学校やPTAでの取組】

	具体的な実践例	期待される効果・留意点
教育機能・施設の活用	<p>< 空き教室の活用 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空き教室等を利用し、PTA役員や学校支援ボランティア用の会議室（控室）を設置し、関係文書の管理や打合せ、常時活動ができるようにしている。 <p>< 地域の文化祭の実施 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事と併せ、「地域の文化祭」を学校で地域と連携して開催し、子どもたちの作品だけでなく、地域住民の作品を展示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ PTA活動や学校支援ボランティア活動が活発化し、学校との連絡調整もスムーズに行うことができ、学校との協働による活動がしやすくなる。 ・ 地域のなかの生涯学習機関としての学校の役割が再認識され、地域住民の学校理解が進み、地域人材や地域教材の情報を多く得ることができる。
保護者会の運営	<p>< 参加型保護者会の実施 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あらかじめ学級懇談のテーマを設定するなどして、案内通知を出している。テーマについては、保護者に事前アンケートを実施して設定している。 ・ テーマについて、和やかな雰囲気の中で参加体験型の手法を用いて、誰もが考えや意見を出せるようにしている。（結論を出すことより、交流を深めることを重視している。） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者が課題をもち、主体的に参加することが期待され、学校での教育活動に参画する意識が醸成されていく。学校も保護者の願いや考えを把握しやすい。 ・ 保護者同士の連帯意識が深まり、学校や学級を支援していく機運が高まっていきPTA活動や学校支援ボランティア活動の活性化にもつながる一助となる。
PTA活動の活性化	<p>< 全員参画の活動、テーマの設定 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PTA会員全員が役員となり、諸行事を分担で担当している。全員が年1回は、行事の企画運営に関わるようにして、参画意識を高めている。 ・ あいさつ運動、早寝早起き、メディア対応等、年間の活動のテーマを設定し、スローガンをもとに、家庭・地域にも呼びかけ、地域と一体化したPTA活動を展開している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ PTA活動への参加者が固定することなく、全会員が活動に参画運営できる機会となり、父親の参加も促進することができる。 ・ 子どもを中核として学校・保護者・地域との結びつきが強まり、学校だけでなく、地域の子どもは地域で育てようとする気運が高まっていく。

【家庭教育への支援】

	具体的な実践例	期待される効果・留意点
学習機会の提供	<p>< 親学習プログラムの実施 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者会や就学時健康診断の際などに、親学習プログラム（参加体験型学習）を実施し、保護者同士が子育てに対する悩みなどを共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校からの一方的な説明や、固定化された保護者同士の雑談に終始することなく様々な保護者同士が子育てについて情報交換をすることで、保護者間の連携が深まり、子育てを支えあう雰囲気が醸成される。さらに、教師も話し合いに参加することで、保護者との信頼関係が深まることを期待される。

家庭教育学級	<p>< 全ての保護者を対象とした 家庭教育学級の実施 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年ごとに家庭教育学級を開設し、それぞれの学年の特性を生かした家庭教育学級を運営している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ より多くの保護者が家庭教育学級に入級し、家庭教育について学ぶことにより、保護者間の連携が深まると共に、学年・学級運営への理解が深まる。
--------	---	---

【地域教育力の導入、関係機関・団体との連携】

	具体的な実践例	期待される効果・留意点
学校支援ボランティア	<p>< 教育活動へのボランティアの位置づけ ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年や教科ごとにボランティアが必要な単元等を洗い出し、計画に位置付けている。また、授業での協力だけでなく、学校行事、環境整備、子どもたちの安全指導等にも位置づけられ、その活動範囲は広がりつつある。 ・ 学校支援ボランティアの活動実践記録を累積していくことにより、学校独自の人材バンクができ、次年度以降の計画立案に役立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年度計画等にボランティア活動が位置付けられていることにより、見直しをもった効果的な導入ができる。また、ボランティアの活動について、教職員の共通理解を図ることができる。 ・ 担当者が異なってもボランティアの確保が容易になる。また、ボランティアの意見を取り入れることで、活動の充実にもつながっていく。
コーディネーター育成	<p>< コーディネーターの活躍の場の広がり ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年間計画をもとにボランティアが必要な活動について、コーディネーターに事前に周知しておき、コーディネートが容易にしている。 ・ 学校側でもコーディネーターや担当窓口を決めて、対応している。 ・ 中学校の職場体験活動では、受け入れ事業所探しをコーディネーターにも依頼することで、生徒の活動の場が広がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の方にコーディネーターになってもらうことで、ボランティアの人材確保が容易になり、打合せ時間等も軽減される。学校とボランティアの意識差を調整することができる。 ・ 保護者やPTA関係者だけにボランティアが偏りがちだが、コーディネーターの存在により、広く地域から人材等を把握できるようになる。
地域での体験活動	<p>< 地域での体験活動の実施 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 放課後や長期休業中に、地域の公民館などを開放して、ボランティアの協力のもと、子どもたちが自由に活動できる場を設けたり、地域の大人とさまざまな活動ができる機会を設けている。 ・ 地域公民館での行事や地域でのお祭りなどで、子供たちに参加を呼びかけるだけでなく、子どもたちにも役割を持たせ、積極的に運営に関わらせている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちにとって異年令の集団で遊ぶ機会を持ったり、地域の大人と接したりすることで、子どもの社会性を育てることにつながる。また、地域のボランティアの子ども理解が図れる。 ・ 子どもたちが、地域での活動の中で役割を与えられることで、自主的に活動に関わり責任感を育てることができ、子どもたちの地域理解にもつながる。
地域フォーラム	<p>< 地域教育懇談会の実施 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者、教職員、地域住民が一堂に会して、子どもの健全育成等に関する懇談会を年に1回定期的を開催し、情報交換をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校、家庭、地域それぞれの立場から子育てについての情報交換をすることにより、全ての大人が連携して子どもを育てる雰囲気醸成することができる。さらには、学校としての役割を明確にすることができ、家庭や地域の教育力の向上が期待できる。
機関との連携	<p>< 出前講座等の活用 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政機関の出前講座を授業などに生かしたり、教員が講師として講座を担当している。 <p>< 子ども会活動の活発化 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ジュニアリーダーと連携し、企画運営を子どもたちも担っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の教育力の活用を図ることで、より専門性の高い内容にも対応できる。また、教職員が講師として出向くことで、連携が一層深まる。 ・ 子どもたちに地域の一員としての自覚をもたせ、生きる力を育成できる。